



2. オイル・ガス

業界動向

海外市場動向～需要は回復、供給懸念により価格は急騰

2021年の世界の原油・ガス需要は、新型コロナウイルス影響からの経済回復に伴い、原油が前年比+5.9%、ガスも同+4.7%増加しました。2022年も新興国を中心とする経済成長により、原油は同+3.5%、ガスは同+0.9%増加する見込みです。原油価格は、需要回復局面でもOPECプラスが増産に慎重なことから上昇基調を辿っており、2022年2月末以降はロシア・ウクライナ問題が緊迫化した影響もあって急騰しています。

国内市場動向～需要回復はするもコロナ前の水準には届かず

2021年度の国内の燃料油需要は、新型コロナウイルス影響で落ち込んだ人流や経済の回復に伴って、前年度比+2.4%増加しました。もっとも、新型コロナウイルス発生前の2019年度対比-4.0%となっており、長期的な需要減少トレンドは継続しています。

今後の見通し

地政学リスク・経済安全保障の影響（含むロシア・ウクライナ問題）

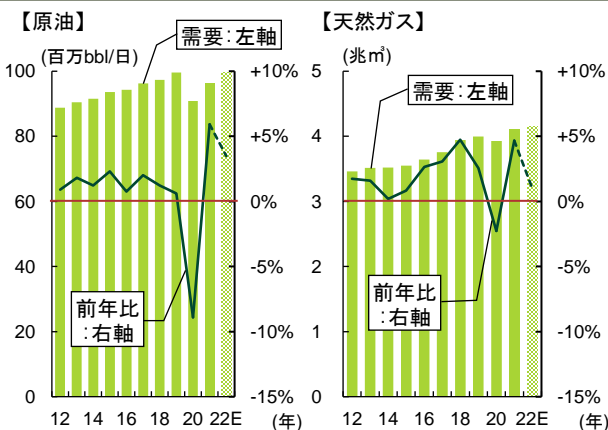
2022年2月末以降、ロシア・ウクライナ問題が緊迫化したことにより、英Shellや米ExxonMobil等の石油メジャーがロシア事業から撤退したほか、欧米によるロシア産原油・天然ガスの輸入制限等の制裁が行われています。この結果、輸入天然ガスの4割強をロシアに依存してきた欧州域内では、天然ガス価格が高騰しています。

日本では、サハリン2プロジェクトからのLNG輸入量は全輸入量の約1割に相当します。経済産業省は、世界の対ロシア制裁が強まる中でも、エネルギー安全保障を重視し、当プロジェクトを含むロシアの原油・天然ガス開発事業に係る投資や調達を維持する方針を示しています。

原油価格は、米国などが石油戦略備蓄(SPR)の放出を打ち出しやや下落したものの、OPECプラスの対応は具体化しておらず、高止まりが続いています。今後も、対ロシア制裁や中東諸国の動き、米国の増産、中国の新型コロナ感染状況次第で変動する不安定な状況が続くとみられます。

図表1 世界の原油・天然ガス需要

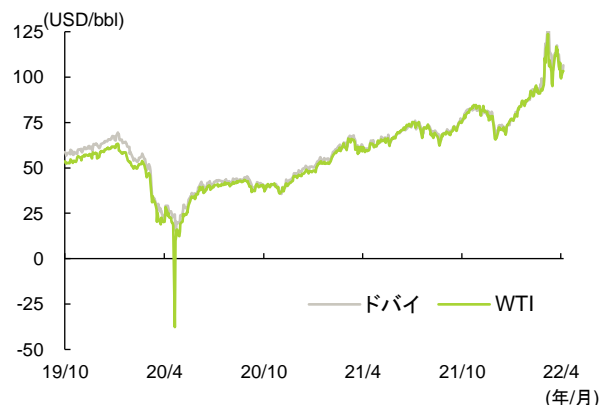
～新型コロナ影響からの回復で復調



出所：IEA「Oil Market Report」、「Gas Market Report」より弊社作成

図表2 原油価格の推移

～供給懸念で上昇傾向、2022年2月以降に急騰



出所：CFTCデータより弊社作成

図表3 ロシア・ウクライナ問題への各国の対応

～ロシア資源の輸入制限および石油備蓄放出

2022年 2月	24日	天然ガスパイプライン「Nord Stream 2」の承認手続きを停止(独)
	28日	英・Shellがロシア天然ガス・石油採掘プロジェクト「サハリン2」から撤退
3月	1日	米・ExxonMobilが同「サハリン1」から撤退 IEA加盟国がSPR(注)を6,000万bbl協調放出すると発表
	8日	ロシア産の原油・天然ガスの輸入禁止(米)、 数ヵ月かけた段階的な輸入禁止(英)
	31日	SPR18,000万bblの放出を発表(米)
4月	7日	SPR1,500万bblの放出を発表(日)

注：Strategic Petroleum Reserveの略。エネルギー安全保障を確保するための石油戦略備蓄のこと

出所：JETROプレスリリースより弊社作成